

愛知教育大学 × 高知大学 × 上越教育大学 × 早稲田大学

# インカレ 卒論発表会

2023年 12月 15日(金) 13:30~17:00

zoom接続情報

ミーティング ID: [REDACTED]  
パスコード: [REDACTED]

zoom名前表示

氏名 (大学名・学年)

例: 大隈花雄 (早稲田大学・4年生)

登録  
不要

スケジュール

高知大学学生による『発表会に向けての準備』および『当日の質疑応答』を通した学びの省察一部抜粋

Aさん：発表題目『特別な教育的支援を必要とする児童と周囲児に対する教師の支援方法—通常学級に在籍する可能性のある児童の導入期に着目して—』

発表会に向け、発表資料を制作したことにより、研究内容を読み直し、卒業論文の流れを確認することができました。また、自分の卒業論文の重要なポイントを掴み、相手に伝えるための方法を考えることができたと感じます。15分の制限時間があり、発表するには十分な時間だと感じていましたが、発表していると、相手に伝わっていないかもしれないと感じたり、さらに詳しく説明したいと感じたりすることが多く、研究内容を十分に相手に伝えるための工夫の難しさを感じた。質疑応答でも、研究方法について質問された場面があり、十分に伝えられなかったと反省しました。

Bさん：発表題目『学校現場で活用できる Well-being を向上させるための CS(Character Strength)活用介入プログラムと効果検証』

スライド資料でまとめることにより、研究の流れが自分にとって分かりやすくなったことです。自分の卒論本体に足りないことや等が分かりました。発表を通して、15分で分かりやすかつ必要な情報を整理して話すことの難しさを感じました。2月の卒論発表会でも、相手が私の研究内容を理解するために本当に必要な情報を絞り、繋がりを意識して発表をしなければならぬと考えました。また、質疑応答を通して、自分の想定外の質問にも対応できるように、広い視点で情報を集めておかなければならぬと考えました。

Cさん：発表題目『小学校教師の認知や行動の実態から捉えた学級づくり—小学校教師の担当学年や教職歴の差に着目して—』

結果の数値データや専門用語については、初めて聞いた人でも分かる言葉に言い換えできるようにしておくこと（図や絵も活用する）。スライドに収める内容を取捨選択し、口頭説明でいいものと分けることでコンパクトな見た目にする必要性を感じた。卒論の課題について尋ねられたため、卒論の強みに加えて弱い部分や改善点を把握しておくことが大切だと感じた。